



Sun Fire™ X2270 サーバー ご使用にあたって

Supplemental Release 1.3 および 2.1

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7795-11
2009 年 7 月、改訂 A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、および Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

Sun Fire X2270 サーバー ご使用にあたって

本書では、Sun Fire™ X2270 サーバーに関する最新情報と問題を説明します。

各問題は、Sun サービス担当者の参照用に提供される内部変更要求 (CR) 番号と関連付けられています。必要に応じて、Sun サービス担当者は、CR 番号を参照して、問題に関する付加的な情報を確認することができます。

項目

説明	リンク
一般情報	<ul style="list-style-type: none">• 2 ページの「Supplemental Release でサポートされるファームウェア」• 3 ページの「Sun から提供されたファームウェアアップデート」• 3 ページの「Sun Fire X2270 サーバーのドキュメント」• 3 ページの「Sun Fire X2270 サーバーの Tools & Drivers CD」• 4 ページの「IPMIflash ユーティリティの問題」• 4 ページの「Sun Fire X2270 サーバーのサポートおよびパッチ」
このソフトウェア リリースの新機能	<ul style="list-style-type: none">• 4 ページの「Sun Fire X2270 サーバーの新機能」
Sun 以外の Web サイト	<ul style="list-style-type: none">• 5 ページの「Sun 以外の Web サイト」
解決された問題	<ul style="list-style-type: none">• 5 ページの「解決済みの問題」
既知の未解決な 問題	<ul style="list-style-type: none">• 8 ページの「ハードウェアの既知の問題」• 10 ページの「BIOS の既知の問題」• 12 ページの「ILOM の既知の問題」• 15 ページの「診断の既知の問題」• 16 ページの「Solaris および OpenSolaris の既知の問題」• 18 ページの「Linux の既知の問題」• 20 ページの「Windows の既知の問題」• 22 ページの「Sun Installation Assistant の既知の問題」

一般情報

項目	
説明	リンク
この Supplemental Release 時点で使用可能なファームウェア	2 ページの「Supplemental Release でサポートされるファームウェア」
ファームウェアアップデートのダウンロードサイト	3 ページの「Sun から提供されたファームウェアアップデート」
最新の製品ドキュメントのダウンロードサイト	3 ページの「Sun Fire X2270 サーバーのドキュメント」
Sun Fire X2270 サーバーのサポート情報	4 ページの「Sun Fire X2270 サーバーのサポートおよびパッチ」

Supplemental Release でサポートされるファームウェア

このアップデートには、ILOM 2.0 を実行するサーバー用、および ILOM 3.0 を実行するサーバー用の 2 つの Supplemental Release が含まれています。

- Supplemental Release 1.3 は、ILOM 2.0 を実行するサーバー用
- Supplemental Release 2.1 は、ILOM 3.0 を実行するサーバー用

表 1 は、各追加ソフトウェアリリースでサポートされる ILOM ファームウェアおよび BIOS ファームウェアバージョンを示しています。

表 1 Supplemental Release で使用可能な Sun Fire X2270 サーバーモジュールファームウェア

Supplemental Release バージョン	ILOM SP ファームウェア	BIOS ファームウェア
1.0	2.0.2.8	1.0
1.2	2.0.2.18	1.07

表 1 Supplemental Release で使用可能な Sun Fire X2270 サーバーモジュールファームウェア (続き)

Supplemental Release バージョン	ILOM SP ファームウェア	BIOS ファームウェア
1.3	2.0.2.20	1.12
2.0	3.0.3.35	1.07
2.1	3.0.3.35.a	1.12

注意 – Sun は、使用しているサーバーに同梱されている ILOM バージョンをダウングレードしないようお勧めします。使用しているサーバーに同梱されたバージョンより低いファームウェアバージョンにダウングレードすると、システムサービスプロセッサが動作不能になる場合があります。その場合、Sun サービスに解決策を問い合わせることが必要になります。

Sun から提供されたファームウェアアップデート

最新の ILOM ファームウェアおよび BIOS ファームウェアは、Sun Fire X2270 サーバーに同梱され、インストールされています。このファームウェアを再インストールまたはその更新版の入手が必要な場合は、次のサイトで Sun Fire X2270 サーバー用のファームウェアを入手することができます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x2270/downloads.jsp>

Sun Fire X2270 サーバーのドキュメント

Sun Fire X2270 サーバーの製品ドキュメント、および更新版の『ご使用にあたって』は、次の Sun ドキュメントのページで入手可能です。

- <http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x2270>

Sun Fire X2270 サーバーの Tools & Drivers CD

Sun Fire X2270 サーバーの Tools & Drivers CD は、注文品と一緒に提供されます。この CD には、サーバーと一緒に使用するデバイスドライバ、RAID 管理ソフトウェア、およびほかのソフトウェアユーティリティが含まれています。この CD のコピーが必要な場合、またはこの CD で提供されているソフトウェアの更新版が必要な場合は、Sun Fire X2270 サーバーの Tools & Drivers CD から最新のソフトウェアを入手できます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x2270/downloads.jsp>

IPMIflash ユーティリティの問題

サーバーの Tools & Drivers CD に含まれている IPMIflash ユーティリティは、壊れているサービスプロセッサ (Service Processor, SP) のファームウェアを回復するための複数の方法を提供します。

注 - IPMIflash ユーティリティには制限があるため、IPMIflash は、SP および BIOS ファームウェアの回復するための好ましい方法ではありません。SP および BIOS ファームウェアの回復に関する情報と指示については、『Sun Fire X2270 Server Service Manual』の付録 B を参照してください。

IPMIflash には次の制限があります。

- SP を回復するために IPMIflash を使用する場合、障害の発生した SP のあるサーバーのホストオペレーティングシステム (Operating System, OS) で IPMIflash を実行する必要があります。また、IPMIflash では SP ファームウェアをアップデートするために PCI インタフェースを使用する必要があります。IPMIflash は現在、Linux オペレーティングシステムでのみ PCI インタフェースをサポートしているため、Windows や Solaris では回復方法として IPMIflash を使用できません。

注 - IPMIflash の将来のバージョンでは、すべてのオペレーションシステムで PCI インタフェースがサポートされる予定です。

- IPMIflash を使用して遠隔システムのファームウェアをフラッシュしている場合、Solaris OS を実行中の遠隔システムで IPMIflash は機能しません。
- IPMIflash を使用して SP ファームウェアをフラッシュしている場合、USB インタフェースが有効なメニューオプションとして表示されますが、USB インタフェースはサポートされていません。

Sun Fire X2270 サーバーのサポートおよびパッチ

Sun Fire X2270 サーバーのサポート情報およびパッチは、次のサイトから入手可能です。

- <http://sunsolve.sun.com>

Sun Fire X2270 サーバーの新機能

追加ソフトウェアリリース 1.3 および 2.1 より、次の新機能がサポートされています。

- [5 ページの「オペレーティングシステムの追加サポート」](#)

オペレーティングシステムの追加サポート

Sun Fire X2270 サーバーは、次のオペレーティングシステムをサポートしています。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.8
- OpenSolaris 2009.06

これらのオペレーティングシステムを Sun Fire X2270 サーバーにインストールする場合の情報は、『Sun Fire X2270 Server Linux, VMware, OpenSolaris, and Solaris Operating Systems Installation Guide』 (820-5606) のインストールに関する指示を参照してください。

Sun 以外の Web サイト

このドキュメントで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

解決済みの問題

項目	
説明	リンク
BIOS の解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 6 ページの「Supplemental Release 1.3 および 2.1 時点における BIOS の解決済みの問題」
ドキュメントの解決済みの問題	<ul style="list-style-type: none">• 6 ページの「Supplemental Release 1.3 および 2.1 時点におけるドキュメントの解決済みの問題」

表 2 Supplemental Release 1.3 および 2.1 時点における BIOS の解決済みの問題

CR	説明
6849217	BIOS にセキュリティー脆弱性が存在する可能性がある
	問題: BIOS のセキュリティー脆弱性のため、完全権限コードを実行して CPU のシステム管理モードへのアクセス権を取得したり、BIOS 内の任意のコードを実行したりする権限を、ローカル権限のユーザーに許可してしまう場合があります。

表 3 Supplemental Release 1.3 および 2.1 時点におけるドキュメントの解決済みの問題

CR	説明
6837590	2.0.2.18 以降に対するファームウェアの回復を有効にするためのサービスマニュアルをアップデートする必要がある
	問題: 『Sun Fire X2270 Server Service Manual (820-5607-10)』をアップデートして、Sun サービス担当者が ILOM 起動前メニューを使用して ILOM firmware 2.0.2.18 以降の回復を実行できるようにするための手順を含める必要があります。
6779289	ILOM サイドバンド管理に関する内容が欠落している
	問題: 『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 2.0 補足マニュアル Sun Fire X2270 サーバー』(820-7792-10)の「ILOM サイドバンド管理」トピックに、サイドバンド管理の特別な考慮事項に関する内容が欠落しています。
該当なし	SLES11 および VMware ESX や ESXi 3.5 用にインストール手順を更新する必要がある
	問題: 『Sun Fire X2270 サーバー Linux および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』(820-7786-10)には、次のオペレーティングシステムのインストール手順が記載されていません。 <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • VMware ESX または ESXi 3.5

既知の未解決な問題

項目

説明	リンク
ハードウェアの既知の問題、説明、および回避方法	• 8 ページの「ハードウェアの既知の問題」
BIOS の既知の問題、説明、および回避方法	• 10 ページの「BIOS の既知の問題」
ILOM の既知の問題、説明、および回避方法	• 12 ページの「ILOM の既知の問題」
診断の既知の問題、説明、および回避方法	• 15 ページの「診断の既知の問題」
Solaris および OpenSolaris の既知の問題、説明、および回避方法	• 16 ページの「Solaris および OpenSolaris の既知の問題」
Linux の既知の問題、説明、および回避方法	• 18 ページの「Linux の既知の問題」
Windows の既知の問題、説明、および回避方法	• 20 ページの「Windows の既知の問題」
Sun Installation Assistant の既知の問題、説明、および回避方法	• 22 ページの「Sun Installation Assistant の既知の問題」

ハードウェアの既知の問題

表 4 ハードウェアの既知の未解決な問題

CR	説明
該当なし	<p>「LED の削除/障害を許可 (OK to Remove/Fault LED)」ラベルがサポートされない</p> <p>問題: 「LED の削除/障害を許可 (OK to Remove/Fault LED)」ラベルが HDD Coral ブラケットにあります。</p> <p>影響するハードウェアおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: Sun Fire X2270 サーバーでは LED はサポートされません。</p>
6790472	<p>Solaris でのリダイレクトを通じて仮想 CD/DVD-ROM を使用できない</p> <p>問題: Sun Fire X2270 サーバーで Solaris を実行し、別のシステムで X2270 SP を通じて RKVM セッションに接続している場合、volmgt が停止するまで仮想 CD-ROM がマウントされません。</p> <p>影響するハードウェアおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: コマンド <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> を入力して、volmgt を停止します。</p>
6750934	<p>SP のブート時に Eth1 が設定されない</p> <p>問題: SP のブート時に次のエラーを受け取ります。 Setting up IP spoofing protection: rp_filter. Configuring network interfaces...FTGMAC100: eth1:ftgmac100_open mach/timer.c: Just lost 2 clock interrupts. SIOCSIFNETMASK: Cannot assign requested address <=== SIOCSIFBRDADDR: Cannot assign requested address <=== Failed to bring up eth1. <=== インタフェース (eth1) は、設定されていないネットワークポートに応じて変わります。上記のエラー例の場合、アウトオブバンド (Out-Of-Band、OOB) 管理ポート <code>/SYS/SP/NET0 (eth0)</code> が設定されていないため、eth1 が表示されました。</p> <p>影響するハードウェアおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: なし</p>

表 4 ハードウェアの既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
該当なし	<p data-bbox="498 236 1322 296">サービスプロセッサを含まないシステムで DIMM および CPU の LED が点灯しない</p> <p data-bbox="498 305 1322 427">問題: サービスプロセッサを含まないサーバーで、DIMM および CPU のエラー状態を示す LED が点灯しません。DIMM および CPU のエラー用 LED が正常に動作するには、オプションのサービスプロセッサモジュールが必要です。</p> <p data-bbox="498 435 1322 505">影響するハードウェアおよびソフトウェア: • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1</p> <p data-bbox="498 513 1322 583">回避方法: なし</p>
該当なし	<p data-bbox="498 600 1322 626">マザーボードの最下部の USB ポートを使用できない</p> <p data-bbox="498 635 1322 730">問題: 機械的な理由から、シャーシ内部のマザーボード上の最下部に配置されている USB ポートは使用できません。</p> <p data-bbox="498 739 1322 808">影響するハードウェアおよびソフトウェア: • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1</p> <p data-bbox="498 817 1322 887">回避方法: シャーシのマザーボード上の最上部にある USB ポートを使用します。</p>
6803507	<p data-bbox="498 904 1322 930">シリアルポートの共有はデフォルトでサービスプロセッサにする必要がある</p> <p data-bbox="498 939 1322 1130">問題: システムの設定が保存されない場合、アップグレードまたはダウングレード時のシリアルポート共有オーナーはデフォルトでサービスプロセッサにする必要があります。 シリアルポートのオーナーがホストに戻ると、SP が IP アドレスを持たなくなり、SP への接続が失われるため、ユーザーはシステムを管理できなくなります。</p> <p data-bbox="498 1138 1322 1208">影響するハードウェアおよびソフトウェア: • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1</p> <p data-bbox="498 1216 1322 1305">回避方法: ロックアウトを回避するには、システムに直接接続されているキーボードとモニターが必要です。</p>

表 4 ハードウェアの既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
6803145	MD5 認証を使用する場合に SNMPv3 トラップを受信しない
	問題: MD5 認証をサーバー設定で使用しているときに、SNMPv3 トラップを受信しません。この動作は、MD5 認証で DES 暗号化または暗号化なしを選択している場合でも同様です。
	影響するハードウェアおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: なしこの欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。

BIOS の既知の問題

表 5 BIOS の既知の未解決な問題

CR	説明
該当なし	RAID 設定ユーティリティに入る
	問題: システムの BIOS で RAID 用のシステムが設定されている場合、Intel の RAID ユーティリティのユーザーアクセス用画面があまりに速く消えてしまい、ユーティリティに入るためのキーを選択し損なうことがあります。
	影響するソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: この問題が生じる場合、システムがメモリーテストを実行するときの最初の POST 画面の後に <code>Ctrl + I</code> を選択します。
該当なし	SP コンソールのシリアルポートがホスト設定を継承する
	問題: システムの BIOS 設定にあるホストコンソールから、ログイン時のプロンプトにある SP コンソールへシリアルポートを切り替えると、SP コンソールのログインプロンプトがすべて大文字に変更されます。これ以降、このコンソールでは入力した文字がすべて大文字になります。
	影響するソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: <code>Ctrl + C</code> を選択すると、通常のログインプロンプトに戻ります。

表 5 BIOS の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
該当なし	BIOS とサービスプロセッサで日時が一致しない
	問題: SP および BIOS ファームウェアが破損してから回復した場合、SP と BIOS の時間が一致しなくなります。
	影響するソフトウェア • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: SP および BIOS の日時を手動でアップデートするか、ILOM を設定してネットワークタイムプロトコル (Network Time Protocol、NTP) サーバーを使用します。
6809522	BIOS がブートリストの最初にある HDD からしか起動しない
	問題: /SP/Bootlist を使用し、ILOM を通じてブート順序を制御すると、BIOS がブート順序のリストで最初にリストされているハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) からしかブートしなくなります。
	影響するソフトウェア • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: ブート順序リストにある別の HDD からブートする必要がある場合、BIOS のブート順序リストでその HDD を一番最初のブートディスクに変更します。
6716289	起動時のメモリーカウントが 8MB 不足する
	問題: BIOS のスプラッシュ画面や「BIOS 設定 (BIOS Setup)」のメインメニューで、インストールされているより 8MB 少ないメモリーがシステムから報告されます。
	影響するソフトウェア • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: なしこの欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。

ILOM の既知の問題

表 6 ILOM の既知の未解決な問題

CR	説明
6840591	<p>サイドバンド管理が設定されているとスパニングツリープロトコルの接続に問題が生じる</p> <p>問題: オンボードホストのギガビット Ethernet コントローラの制限のため、ILOM サイドバンド管理使用時にはホストのネットワークポートにスパニングツリープロトコル (Spanning Tree Protocol, STP) を設定すべきではありません。STP が有効になっていると、STP でスパニングツリーの再計算をしている間、ILOM Web インタフェースで最長 1 分間の一時的な接続停止が発生することがあります。</p> <p>影響するソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, 2.1 <p>回避方法: ILOM サイドバンド管理を設定する前に、ホストネットワークポートでSTP を無効にする必要があります。</p>
6795975	<p>複数の ILOM リモートコンソールのセッションが正常に動作しないことがある</p> <p>問題: 同じサービスプロセッサに対して ILOM リモートコンソールのセッションが複数開いている場合、追加セッションのキーボードインタフェースが正常に動作しないことがあります。最初のセッションのキーボードインタフェースは影響を受けません。</p> <p>影響するソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, 2.1 <p>回避方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ILOM Remote Console」ウィンドウでダブルクリックしてキーボードをアクティブ化してから、マウスを動かします。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ILOM Remote Console」メニューバーで、「Devices」->「Mouse」の順に選択してからマウスを動かします。

表 6 ILOM の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
6800702, 6813782	<p>Sun ILOM リモートコンソールでストレージのリダイレクトがサポートされていない</p> <p>問題: 64 ビット JRE (Java Runtime Environment, Java 実行環境) を使用して Sun ILOM リモートコンソールを起動した場合、ストレージのリダイレクトを開始しようとする と失敗することがあります。64 ビット JRE は 64 ビットシステムでのデフォルトで あるため、場合によっては 32 ビット JRE もダウンロードする必要があります。 64 ビット JRE を使用してストレージのリダイレクトを開始すると、「サポート外 のプラットフォーム (Unsupported platform)」というエラーが表示されます。</p> <p>影響するソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: 64 ビットシステム上に 32 ビット JRE をインストールします。JRE は次の Web サ イトからダウンロードできます。 http://java.com/en/download/index.jsp</p>
6839546	<p>ILOM 管理をサイドボードとアウトオブバンド (Out-Of-Band) で切り替える 場合に IPMI GUID が変更される</p> <p>問題: ILOM 管理をサイドバンドとアウトオブバンドで切り替える場合に、IPMI GUID が変更されます。この予期しない動作により、IPMI GUID を使用してシステム 管理を行うアプリケーション (たとえば、Sun xVM Ops Center)、または SMBIOS UUID を使用してサーバープロビジョニングを行う配備が影響を受け ます。Sun 以外のシステム管理ツールまたはサーバープロビジョニングツール を設定する前に、サイドバンドまたはアウトオブバンドに対する ILOM 設定が 完了していることを確認してください。</p> <p>影響するソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: なしパッチが入手可能かどうかを確認してください。</p>
6842891	<p>ILOM 3.0 から ILOM 2.0 にダウングレードするときにホストシステムの電源を 切る必要がある</p> <p>問題: ILOM のファームウェアアップグレード機能を使用して ILOM 3.0 から ILOM 2.0 にダウングレードするときに、ダウングレード前にホストの電源を切る必要 があります。</p> <p>影響するソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 2.0、2.1 <p>回避方法: ホストの電源を切って 5 分間待機してから、ダウングレードを起動します。</p>

表 6 ILOM の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
6806444	<p data-bbox="418 244 1239 296">CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトする場合に、Windows クライアント上の Sun ILOM リモートコンソールがハングアップする</p> <p data-bbox="418 317 468 343">問題:</p> <p data-bbox="418 352 1218 435">Sun ILOM リモートコンソールからの CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージのリダイレクトに Windows クライアントを使用するとき、Sun ILOM リモートコンソールが応答しなくなることがあります。</p> <p data-bbox="418 453 644 479">影響するソフトウェア</p> <ul data-bbox="418 487 1232 638" style="list-style-type: none"> • Supplemental Release 1.2、1.3、2.0、2.1 • Sun ILOM 遠隔コンソール • JDK 160 • クライアントシステムにインストールされている Windows オペレーティングシステム <p data-bbox="418 661 515 687">回避方法:</p> <ol data-bbox="418 696 1232 835" style="list-style-type: none"> 1. Windows クライアント上で Sun ILOM リモートコンソールを閉じてから、次のいずれかの回避方法を実行します。 • Linux または Solaris クライアントを使用して、Sun ILOM リモートコンソールを起動して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージのリダイレクトを行います。 <p data-bbox="418 843 486 869">または</p> <ul data-bbox="418 878 1232 961" style="list-style-type: none"> • Windows、Solaris、または Linux クライアントを使用して、ILOM 3.0 で Storage Redirection Utility を起動して CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージのリダイレクトを行います。 <p data-bbox="418 970 1232 1046">注 - Storage Redirection Utility 機能は、ILOM 3.0 でのみ使用可能なコマンド行ユーティリティです。Storage Redirection Utility の使用方法に関する指示は、ILOM 3.0 ドキュメント群を参照してください。</p>

診断の既知の問題

表 7 診断の既知の未解決な問題

CR	説明
該当なし	ILOM 組み込みの Pc-Check が最新バージョンでない
	問題: ILOM に組み込まれている Pc-Check ソフトウェアユーティリティー (バージョン 6.21) は最新のバージョンではありません。
	影響するソフトウェア <ul style="list-style-type: none">• Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: このユーティリティーの最新バージョンは、Sun Fire X2270 サーバーの Tools & Drivers CD にあります。

Solaris および OpenSolaris の既知の問題

表 8 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決な問題

CR	説明
該当なし	<p>Hitachi 1TB HDD がオンラインに回復しない</p> <p>問題: Solaris OS が動作しているサーバーで、Hitachi 1TB ハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) をホットプラグ処理している場合に、HDD がオンラインに回復しません。</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 5/09 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: 端末ウィンドウを開いて <code>cfadm -x sata_port reset</code> コマンドを入力すると、HDD がオンラインに回復します。</p>
6764573	<p>USB KVMS のリダイレクトされたキーボードおよびストレージが Intel VT-d 有効時に機能しない</p> <p>問題: リモート KVMS のリダイレクトされたキーボードおよびストレージ用に使用している USB デバイスが、Intel VT-d が有効になっている場合に機能しません。リダイレクトされた DVD 経由のインストールの場合は開始することはありませんが、IOMMU の障害メッセージがコンソールに表示されたあとでハングアップします。リダイレクトされた USB キーボードもハングアップします。さらに、ほかのデバイスも影響を受けることがあります。こうした障害が発生した場合、IOMMU の障害によって次のようなメッセージが表示されます。</p> <p>警告: PCI(0,26,7) のアドレス 0x0 に対する DMA 読み取りの翻訳時に dmar0,0 が障害イベントを生成しました。理由: DMA 読み取り時にページテーブルエントリの読み取りフィールドがクリアされていました。 (WARNING: dmar0,0 generated a fault event when translating DMA read on address 0x0 for PCI(0, 26, 7), the reason is: The Read field in a page-table entry is Clear when DMA read)</p> <p>警告: pci@0,0/pci1028,235@1a,7 (ehci0): 回復不可能な USB ハードウェアエラー。 (WARNING: /pci@0,0/pci1028,235@1a,7 (ehci0): Unrecoverable USB Hardware Error)</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • OpenSolaris 2008.11 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1

表 8 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
6794301 続き	<p>回避方法: 次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BIOS で VT-d を無効にします。 システムの起動時に、POST 後に F2 を押して BIOS 設定に入ります。 「Advanced (詳細)」タブを選択してから、VT-d の設定を無効にします。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris の「GRUB」メニューで intel-iommu を無効にします。 <p>注 - 「GRUB」メニューの編集に関するヘルプが各画面の下部に表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インストール中に、 -B intel-iommu=no を追加して「GRUB」メニューを修正します。 2. 「GRUB」メニューが表示されたら、「e」を入力して編集状態にし、適切なブートエントリまでスクロールします。 3. 矢印キーを使用して、次のような行を選択します。 kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix 4. 「e」を入力して、このエントリを編集します。 5. この行に -Bintel-iommu=no を追加して、次のようにします。 kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix -Bintel-iommu=no 6. Enter を押してから、「b」を押してブートします。 このブートオプションを既存のオプションのリストに追加する場合、ブートオプション間をコンマで区切ります。 たとえば、次のように入力します。 kernel\$ /platform/i86pc/kernel/\$ISADIR/unix -Bconsole=ttya,intel-iommu=no 7. インストールが完了したら、上記で説明した GRUB の編集手順を繰り返してからブートします。 ブートしてから、/platform/i86pc/kernel/drv/rootnex.conf を編集して次の行を追加します。 intel-iommu=no 8. インストール後に、次のように変更します。 /platform/i86pc/kernel/drv/rootnex.conf, adding intel-iommu=no 9. 次のように入力してブートアーカイブを再作成します。 bootadm update-archive

表 8 Solaris および OpenSolaris の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
6794301	ブートディスクサイズに制限がある
	問題: Solaris 10/08 は、1TB より大きいサイズのディスクデバイス上にインストールされません。
	影響するオペレーティングシステムおよびハードウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 10/08 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: 1TB 以下のブートデバイス上に OS をインストールします。

Linux の既知の問題

表 9 Linux の既知の未解決な問題

CR	説明
該当なし	IPMI サービスが開始に失敗する
	問題: RHEL 4.7 および SLES10 SP2 で、IPMI サービスが開始に失敗します。
	影響するソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 および SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1
	回避方法: IPMI サービスを開始するには、次の手順に従います。 <ol style="list-style-type: none"> 1. dmidecode の出力を再検討して、KCS ベースポートアドレスを決定します。 たとえば、ベースアドレス: 0x000000000000CA2 (I/O) 2. 端末ウィンドウから次のコマンドを入力します。<base address> に前の手順で決定したベースアドレスを入力します。 <code>modprobe ipmi_si type="kcs" ports=<base address> regspacing="4"</code> 3. 次のコマンドを入力して、IPMI サービスを開始します。 <code>service ipmi start</code>

表 9 Linux の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
該当なし	<p data-bbox="498 244 858 270">マウスカーソルが表示されなくなる</p> <p data-bbox="498 288 1300 374">問題: SLES10 SP2 上で <code>install.sh</code> スクリプトを実行したあと、マウスカーソルが表示されなくなります。</p> <p data-bbox="498 392 986 487">影響するソフトウェア</p> <ul data-bbox="498 427 986 487" style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p data-bbox="498 505 1300 618">回避方法: このスクリプトの実行後には、キーボードのホットキーを使用するか、端末ウィンドウからコマンド行エントリを使用してサーバーを再起動します。サーバーが再起動すると、マウスカーソルがふたたび表示されます。</p>
該当なし	<p data-bbox="498 635 1058 661">SLES10 SP2 のインストール時にマウスが急に移動する</p> <p data-bbox="498 678 1086 739">問題: SLES10 SP2 のインストール時にマウスが急に移動します。</p> <p data-bbox="498 756 986 852">影響するソフトウェア:</p> <ul data-bbox="498 791 986 852" style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p data-bbox="498 869 1300 982">回避方法: ILOM にログインし、「Remote Control」->「Mouse Mode Settings」タブに移動します。「Mouse Mode」ドロップダウンリストから、「Relative」を選択します。</p>

Windows の既知の問題

表 10 Windows の既知の未解決な問題

CR	説明
6783673	<p>Windows Server 2008 で PCI Express バスドライバ用にホットフィックスが必要な場合がある</p> <p>問題: Microsoft には PCI Express 用にアップデートされた PCI バスドライバがあります。これにより、PCI Express のルートポートを無効にしてからふたたび有効した場合に、そのルートポートで最大ベイロードサイズが誤って設定されるといった潜在的なバグを解決します。</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: 『Knowledge Base Article (知識ベース記事)』 (http://support.microsoft.com/kb/952681) に、この分野の問題が発生した際にエンドユーザーがダウンロードできるホットフィックスへのリンクがあります。この問題は、Service Pack 2 のリリース時に解決されるはずですが。</p>
6783538	<p>Windows Server 2008 で X4237A IB アダプタカードが無効な場合にブルースクリーンエラーが表示される</p> <p>問題: X4237A Infiniband (IB) ホストチャネルアダプタカードが Windows の「デバイスマネージャ」で無効になっている場合、Windows Server 2008 が停止してブルースクリーンになり、「バグチェック 0x122 - 汎用 WHEA エラー (Bug Check 0x122 - General WHEA Error)」と表示されます。</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: Windows Device Manager で X4237A カードは無効にしないようにします。このカードを無効にしてブルースクリーンになりエラーが生じた場合は、システムをリブートすると回復します。リブート時には X4237A カードが有効になります。この欠陥のパッチが入手可能かどうかを確認してください。</p>

表 10 Windows の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
該当なし	<p>Windows Server 2003 のインストールにブートドライバが必要</p> <p>問題: Windows Server 2003 32 ビットまたは 64 ビットを AHCI モードでインストールする場合、ブートドライバが必要です。</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: Sun Fire X2270 サーバーの Tools & Drivers CD にフロッピドライバやフロッピーイメージがあります。</p>
該当なし	<p>Windows Server 2008 でディスク順序が異なった形で検出される</p> <p>問題: Windows Server 2008 OS をインストールしている場合、AHCI モードのときに BIOS とは異なるディスク順序が OS で検知されます。</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p>回避方法: Tools & Drivers CD から AHCI ドライバをインストールし、そのあとでディスクを Windows OS のインストール内でパーティション化します。アップデートされた AHCI ドライバがインストールされると、ディスクレイアウトが正常に検知されるようになります。AHCI ドライバのインストール方法については、『Sun Fire X2270 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』(820-7789)を参照してください。</p>

Sun Installation Assistant の既知の問題

表 11 Sun Installation Assistant (SIA) の既知の未解決な問題

CR	説明
6796419	<p>SIA を使用して IDE モードで SLES をインストールすると OS がブートしない</p> <p>問題: Sun Installation Assistant (SIA) を使用して SLES 10 SP2 をインストールしており、オンボードコントローラが IDE モードに設定されている場合、インストール後に OS がブートしません。</p> <p>影響するソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 • Supplemental Release 1.0, 1.2, 1.3, 2.0, 2.1 <p>回避方法: 次のいずれかの回避方法から選択して実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Installation Assistant を使用せずに SLES 10 SP2 をインストールします。 • オンボードコントローラで IDE モードを使用しないようにします。代わりにデフォルトの AHCI モードを使用します。 • IDE モードを使用する必要がある場合、次の手順を実行して「GRUB」メニューを手動で編集します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. インストール中に、ブートする OS を選択します。 2. 「ブートオプション (Boot Options)」フィールドに次の内容を追加します。 root=/dev/sda2 resume=/dev/sda1 3. 変更を永久的なものにするため、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> a. OS の起動後に、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して「GRUB」メニューを変更します。 vi /boot/grub/menu.1st b. 「BRUB」メニューエントリの kernel 行の root= エントリを次のように変更します。 title Linux title Failsafe 次のようになります。 root=/dev/sda2 root= エントリは次のようになります。 root=/dev/diskby-id/ata- SEAGATE_STN7250SBSUN500G_0703C0MRBS_5QG0MRBS-part2 同様に、resume= エントリを resume=/dev/hda1 から resume=/dev/sda1 に変更します。 c. 次のコマンドを入力して、/boot/grub/menu.1st を保存します。 :wq

表 11 Sun Installation Assistant (SIA) の既知の未解決な問題 (続き)

CR	説明
6788702	<p data-bbox="496 234 948 260">拡張 IDE モードが SIA でサポートされない</p> <p data-bbox="496 274 548 300">問題: Sun Installation Assistant (SIA) を使用して Linux をインストールしている場合、オンボードコントローラが拡張 IDE モード用に設定されていると、ディスクがまったく検出されません。</p> <p data-bbox="496 401 729 427">影響するソフトウェア:</p> <ul data-bbox="496 435 1262 496" style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 4.7/5.3 および SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p data-bbox="496 510 594 536">回避方法: 拡張 IDE モードを使用しないようにします。代わりに AHCI モードか、互換 IDE モードを使用します。</p>
6821555	<p data-bbox="496 607 1219 633">SIA で Windows Server 2003 R2 の 32 ビット版がインストールできる</p> <p data-bbox="496 647 548 673">問題: Sun Installation Assistant を使用すると Windows Server 2003 R2 の 32 ビット版をサーバーにインストールできます。SIA がサーバーへのインストールを許可する OS は、この OS の SP2 バージョン、つまり Windows Server 2003 R2 SP2 の 32 ビット版のみである必要があります。</p> <p data-bbox="496 805 729 831">影響するソフトウェア:</p> <ul data-bbox="496 840 986 900" style="list-style-type: none"> • Windows Server 2003 • Supplemental Release 1.0、1.2、1.3、2.0、2.1 <p data-bbox="496 914 594 940">回避方法: なし</p>

